

平成 28 年度第 2 回浜松市創造都市推進会議 議事録

日 時：平成 28 年 11 月 21 日（月）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

場 所：浜松市役所本館 8 階 第 4 委員会室

出席者：寺田聖子副会長（会長職務代理）、和久田明弘委員、桧森隆一委員、空屋英夫委員、佐藤洋一委員、伊豆裕一監事、

欠席者：山名裕監事

オブザーバー：中村公彦創造都市推進担当課長、石塚良明国際課長（代理：齋藤美苗国際課主幹）、森田孔二文化政策課長、鈴木正仁生涯学習課長、瀧下且元産業振興課長（代理：東畑俊次産業振興課副主幹）鈴木和彦観光・シティプロモーション課長（代理：寺田晃観光・シティプロモーション海外戦略担当課長）

報道関係：2 人（中日新聞社×1、静岡新聞社×1）

傍聴人：0 人

事務局：影山元紀主幹、新山隆平主任、外山裕太、佐藤佳澄（以上、文化政策課創造都市推進グループ）、鈴木三男文化政策課長補佐、藤田健次生涯学習課長補佐

1 開会

（中村創造都市推進担当課長）

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、浜松市創造都市推進会議の平成 28 年度第 2 回会議を始めさせていただきます。

本日は、過半数を超える委員にご参加いただいておりますので、会議が成立していることを報告させていただきます。

まず、会議に入る前に委員の皆さまへお伝えすることがあります。すでにご承知だとは思いますが、浜松市創造都市推進会議会長を務めて頂いていた根本敏行様が 9 月に逝去されました。浜松市創造都市推進会議規約第 7 条第 2 項「副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。」により、本日の会議は副会長である寺田聖子委員に会長職務代理を務めて頂きますので、よろしくお願い致します。

（事務局 影山）

本日、机上に配布しました会議資料について確認いたします。

（※資料 1～4 について配布確認）

以上でございます。不足はありませんでしょうか。

それでは、ここからの進行は寺田副会長にお願いいたします。

（寺田副会長）

それでは、議事に入ります。審議事項（1）「浜松版アーツカウンシルについて」、事務局から説明をお願いいたします。

2 議事

審議事項 1 浜松版アーツカウンシルについて

(資料1「浜松市における中間支援組織等のあり方に関する研究 報告書・概要」に基づき事務局より説明)

(寺田副会長)

ありがとうございました。今の説明について意見がありましたら、お願いします。

(桧森委員)

アーツカウンシルがどのような機能を果たすのかという説明でしたが、芸術的価値を生み出す個人の創造性については尊重しなければいけないと思います。しかし、その創造性を尊重する一方、中間支援組織がそれを社会的・経済的価値に分かりやすく転換する必要があります。もちろん、アーティストの芸術活動について、中間支援組織がその活動内容を曲げること、介入などをしてはいけません。

そういう意味では、中間支援機能はアーティストの持つ芸術活動に対して、多面的に評価する力を必要とします。また、浜松市における社会的・経済的課題を理解し、芸術活動を価値に変えて、市のために活用していくべきだと思います。

今、鴨江アートセンターでも、レジデンス事業を行っていますし、アート×テクノロジーという事業も行っています。これは、アーティストとエンジニアのようなテクノロジストが互いにコラボレーションして、新しいモノを生み出そうとするものです。そこで気が付くのは、根本会長の提唱する「アルティニア」のコンセプトはよくわかるのですが、これが一人の間で行うものかと思うと、ちょっと違うのかなと思います。私は、アルティニアのコンセプトについては、コラボレーションが必要であるという捉え方をしています。アーティスト、アルチザン、エンジニアのそれぞれ専門家である3名が一つになって、レジデンスを通して何かを創り出すということであれば、浜松らしいやり方なのではないかと思えます。今でも、アーティストとコラボレーションしたいエンジニア、また、その逆もそうですが、そういった要望が数多くあるので、このような形のレジデンスは考えられるのではないかと思います。

根本会長が視察された東京、沖縄、山口、こういった所で中間支援を行っている人たちとの人的ネットワークはすでに浜松にあります。したがって、そういった人たちの力を借りながら、浜松市の新しい組織を作っていくことは十分可能です。ただ、非常に大きな問題としては、アーティストの価値を目利きする人をどうするかということがあります。

(寺田副会長)

今の意見では、中間支援組織がアーティストの芸術活動を社会的・経済的価値に分かりやすく転換すること、アルティニアのコンセプト、アーティストの価値を評価する人の存在が必要であるということでした。確かにアーティストの活動を適正に評価することは大変難しいことだと思います。

(和久田委員)

他都市のーツカウンスルは、行政から距離を置いて独立性を保っているようですが、それは行政をその内容に関与させないためなのか、専門性が強いために行政が介入できないだけなのかを知りたいです。

(佐藤委員)

資料 1 にある沖縄県や札幌市の事例についても、行政から独立している組織として理解して良いのですか。

(桧森委員)

組織のしくみやアーティストを評価する人等については、行政から独立しています。

(佐藤委員)

ということは、資料 1 にある青森市の事例のような事務局組織内で事項決定するというような理解でよろしいでしょうか。

(桧森委員)

そうです。

(寺田副会長)

他に意見はありませんか。

(佐藤委員)

前回の会議では、浜松市の文化の担い手について、行政が主導する欧州型がふさわしいという発言が根本会長よりあったと思います。これまでの浜松市の文化施策の取り組みについては、確かに市が主導して行ってきました。ただ、中間支援機能のような今後の文化の担い手について、同じようなスタンスでやるのか、本当にそれで良いのか議論する余地があると思います。

(事務局)

今回の提言を踏まえ、市としてどのように施策を行うのか、あらためて示していきたいと思えます。

(寺田副会長)

その中で今後必要なものについては、この会議で確認および議論を行っていきます。

(桧森委員)

例えば、日本文化芸術振興会の芸術文化振興基金については、税金と民間企業からの寄付で成り立っています。

(佐藤委員)

寄付文化のようなものがあるとすれば、行政としては歓迎すべきものであると思います。

(和久田委員)

今後、アーツカウンシルの形を造っていく中で、根本会長の研究報告書を基に十分に検討して議論を深めていくべきだと思います。私としては、アーツカウンシルは行政からなるべく手の離れたところで、どのようなことが出来るのかを基本的に考えていければと思います。

行政の役割は、お金を出すことと全体のぶれない文化政策のビジョンの策定、そしてそのための環境整備について議論をすべきことだと思います。ただ、アーツカウンシルは行政からなるべく手の離れたところで、と言いながらも最終的な責任は行政にあります。例えば、アーティストの目利きに関しては、民間サイドで行うべきだと思いますが、評価に関しては、お金を出している行政が行うべきではないかと私は考えています。

(寺田副会長)

他都市の事例等も評価についての参考になるとと思いますので、そういったところを具体的に整理して進めていきたいと思います。今後の会議でも、お渡しする資料を基に議論していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

審議事項 2 文化創造拠点施設基本構想の策定について

(寺田副会長)

続きまして、審議事項 (2) 「文化創造拠点施設基本構想策定について」、事務局から説明をお願いいたします。

(中村創造都市推進担当課長)

「文化創造拠点施設基本構想の策定について」については、鈴木正仁生涯学習課長から説明させていただきます。

(鈴木生涯学習課長から、資料 2-1 「浜松市内文化施設の利用状況 (平成 27 年度)」、資料 2-2 「浜松市内文化施設の位置図」、資料 3 「他都市の文化施設について」、資料 4 「はまホール後継施設に関するニーズ等調査について (案)」に基づき説明)

(寺田副会長)

ありがとうございました。説明について意見がありましたら、お願いします。

(桧森委員)

アンケートの調査対象としては、ぜひ文化政策課に登録されている浜松市文化芸術創造団体の全数について行っていただきたいです。なぜなら、それらの団体の多くが、はまホール難民となっているためです。彼らは、今までホールの利用を主目的としておらず、は

まホール内のリハーサル室等の練習室のみを利用し、合唱や演奏の練習をしてきました。そういった人たちの行き場所が、現在ではなくなってしまったために困っています。

資料 2-1 にある浜松市内のホールの利用状況を見ると、浜松市民は音楽演奏や合唱等の練習をする割合が高いです。付け加えると、他都市に比べても浜松市のそのような活動比率は高いです。そういった人たちが、練習するための施設が浜松市には少ないと言えます。音を出す活動となるので、通常の会議室や協働センター等の施設では出来ません。そういった状況の中ではまホールが閉館となったので、難民が発生する原因となっているのです。

ビジュアルアートを主軸とする鴨江アートセンターにも、現在そういった団体が練習所として利用している状況です。したがって、アンケート調査には、ホールの利用以外に練習場所等のニーズが分かる項目も追加していただきたいです。

もう一つは、中心市街地の活性化を考えた時に、文化施設は集客施設ですので、出来るだけ中心市街地に新しい文化創造拠点施設があることが望ましいと思います。中心市街地にこれ以上大型商業施設は出来ないと思われまして、中心市街地のにぎわいを創出するためには、公的な文化施設によって達成するのが有効であると考えますので、立地についてもそういった点を踏まえていただきたいです。

(鈴木生涯学習課長)

まず、練習室のニーズについては、アンケートに項目を追加していきます。

(桧森委員)

もう一点、他都市の文化施設を視察する際、例えば石川県金沢市にある金沢市民芸術村などは練習室をメインとした施設なので、そちらもぜひ視察していただきたいです。

(鈴木生涯学習課長)

金沢市民芸術村については、すでに情報収集を行っていますので、視察先として検討していく予定です。

(佐藤委員)

資料 4 の(2) 事業者を対象としたアンケート調査 Q.4 の項目を考えた時、対象事業者として、開発系のデベロッパーにもアンケート調査を行っていただきたいです。

(鈴木生涯学習課長)

開発系のデベロッパーも調査対象として検討していきたいと思います。

(伊豆委員)

資料 4 のアンケート調査 Q.4 の項目でラボ(工房)と入っていますが、これはいわゆるファブラボのような新しいイノベーションを起こすようなデジタル実験的なラボと捉えてよろしいでしょうか。

(中村創造都市推進課長)

まだ、具体的な中身の方向性は決めていませんが、根本会長の研究報告書の提言にもあった実験が出来るラボ機能の重要性より、アンケート項目として入れてあります。

(伊豆委員)

例えば、私は山口県山口市にある YCAM (山口情報芸術センター) に行ったことがあるのですが、そこにはラボがありまして、過去の子どもの運動会記録を基にしたデジタル動画を開発し、センターの体育館内で半年前の自分の映像と競争してどれだけ速くなったか体験できる興味深いプログラムが行われていました。

(寺田副会長)

他に意見がありましたら、お願いします。

(空屋委員)

スケジュール的には平成 28 年度で基本構想を検討し、平成 29 年度で基本構想と基本計画を策定する、またこの推進会議内でそれらの策定を行う、という認識でよろしいでしょうか。

(鈴木生涯学習課長)

この推進会議で基本構想を委員の皆さんに審議していただきながら、平成 29 年の夏以降に基本構想をまとめたものを市民へ示し、意見を集めていきたいと考えています。したがって、基本構想については平成 28 年度と平成 29 年度でまとめていく予定です。

(和久田委員)

今後、基本構想および基本計画の策定に入る際、アンケートのニーズ調査については、より幅が広くて深いものを行っていただきたいです。また、アンケート調査を行う前提として、市民文化創造拠点施設が浜松市の創造都市構想と密接に関わりあっているという認識を調査対象者には持っていただきたいです。さらに、市のこれからの方針や構想についての詳細な説明が見えるようにしてほしいです。例えば、現存するホール機能との重複性の整理、またアーティストやエンジニアとの交流機能の想定等、今回 1 回きりで終わらないような多岐に渡るアンケートにしてもらいたいです。

(鈴木生涯学習課長)

アンケート調査内容については、昨年、はまホール検証検討会において、団体に向けアンケートを 2 回行い、その結果を踏まえた中で検討会委員の審議および提言を受けて作成したのになっています。今回行うアンケート調査を 1 次的なものとし、そこから 2 次的なものとしてインタビューを行います。さらにそこから、パブリックコメントで市民の皆さまからご意見をいただいく予定です。

(桧森委員)

吹奏楽演奏や合唱等の団体の練習室だけではなく、浜松市ではさまざまなジャンルのバンドが使用するスタジオやライブハウス、音響設備が不足しているので、そういったところのニーズがわかる項目もアンケートに盛り込んでいただきたいです

もう一点として、施設の建築費用についての問題もあります。他都市では、シンボリックな要素を優先して建築費用見積が高くなってしまい、入札不調になった文化施設の事例もあります。その一方で必要なものを十分に備えながらも建物自体は簡素にし、費用を抑えている施設もあります。したがって、新施設にはどこにお金をかけて、どこにお金をかけないかを事前に慎重に考えていく必要があります。

(佐藤委員)

市議会では、この件についてどのような意見や反応がありましたか。

(鈴木生涯学習課長)

市民の期待が高いため、なるべく早い時期での新施設の完成を目指してもらいたいことや、はまホールのような交通至便な適地があるのか、現在の劇場法に沿った人材育成に力を入れてほしい、といった意見や質問等が議員からありました。全体としては、浜松市創造都市推進会議内で議論し、新施設の基本構想を策定していくことで了解をいただいています。

(佐藤委員)

反対意見はなかったんですね。

(鈴木生涯学習課長)

新施設の設置について、そのような意見はありませんでした。

(和久田委員)

市民の了解をいただける様、しっかりと論拠や説明をする必要があります。建設資金のことや今後数十年の活用方法なども踏まえてほしいです。

(鈴木生涯学習課長)

はまホール検証検討会では、新施設の設置について民間活力を利用したコストダウン、新たな需要の喚起による市内外の交流人口の拡大、市内の他施設が集中する市中心部の施設集約や統廃合などについて提言がありました。

また、はまホールの従来機能だけを持った代替施設を設置するのではなく、今後の創造都市としてのキーワードを踏まえた、創造都市としての発展にふさわしい新たな機能を備えた施設であるべきだという提言もいただいています。

(佐藤委員)

ぜひ民間活力の導入検討をしていただければと思います。

(寺田副会長)

はまホール検証検討会からの提言については、すでに市長および市議会にも報告し、理解をいただいています。その上で今回の文化創造拠点施設基本構想策定について進めているところでもあります。新施設については、根本会長の報告書にも記載がありますよう、創造都市の観点および方向性を盛り込むことがとても重要なポイントであると言えます。事前調査については、市民のニーズを十分に把握できるよう、しっかりとしたアンケート調査を行っていただきたいと思います。

(伊豆委員)

根本会長は常々、浜松市のクリエイティブな土壌を創造都市の取り組みへと転化していきたいと話されていました。今後、新施設については、しっかりとした調査を基に進めていただければと思います。

3 その他

(寺田副会長)

それでは他に事務局から連絡はありますでしょうか。

(12月16日(金)に開催する「サウンドデザインシンポジウム in HAMAMATSU 2016」について事務局より説明)

4 閉会

(事務局 影山元紀)

以上をもちまして、平成28年度第2回創造都市推進会議を終了します。本日は会議での活発な審議をいただき、ありがとうございました。次回会議の開催については、改めてご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。